

ピロリ菌を除去しよう!!

CARE NPO法人
消化器健康医療研究機構
GastroIntestinal Medical Care Research Center

一般社団法人 神戸国際消化器内視鏡教育センター

ピロリ感染と胃がんをテーマに開かれた日本ヘリコバクター学会主催の市民公開講座



発行所

神戸新聞社

神戸市中央区東川崎町

1-5-7

郵便番号 650-8571

神戸新聞NEXT

<http://www.kobe-np.co.jp/>

無断で複写・転載することを禁じます

めぐる君

号外



地域パートナー宣言
神戸新聞

もっといっしょに。
購読のお申し込み
0120・16・8349

専門医が治療の最新情報を紹介



東海大学医学部
総合内科
高木敦司教授



神戸大学医学部
消化器内科
東 健 教授



神戸大学医学部
消化器内科
梅垣英次特命教授

市民公開講座

最終日の28日は、神戸大学医学部会館3階のシステムスクール（神戸市中央区楠町7）で、「ヘリコバクター・ピロリ感染と胃がん」をテーマにした同学会主催の「市民公開講座」（神戸市医師会、神戸市薬剤師会後援、株式会社明治、NPO法人消化器健康医療研究機構協賛）が行われ、一般市民200人が参加。専門医から話を聞いた。

講座の冒頭、ピロリ菌研究の第一人者でもある、神戸大学医学部消化器内科の東健教授が話題して、現在最も先進的に行われている侵襲の少

慢性の胃炎についてと予防が可能になったこと。また、ピロリ菌の感染が原因で発症する

感染しても自覚症状なし

続くことなどが判明。長年に多くの日本人が胃潰瘍や胃がんの引き金となることが判明。長年、多くの日本人が胃がんで苦しんできたが、ピロリ菌を除去すること

が紹介があった。

続いて、東海大学医学部総合内科の高木敦司教授が「ピロリ感染胃炎の除菌療法について」と題し、ピロリ菌を見つける検査法やその治療法について、分かりやすく説明した。また、神戸大学医学部消化器内科の梅垣英次特命教授

が伺われた。

この日は、ピロリ菌に感染すると菌に抵抗する抗体ができることを応用して、尿の中に抗体があるかどうかを調べる「尿中抗体検査」が無料で行われた。定員の150人を大幅に超える申し込みがあり、市民の関心の高さ

胃がん予防に有効

「保険診療」で可能になつた

胃がんの原因とされるピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）の感染診断や除去治療、胃がんなどピロリ菌由来の病気の予防と治療を目指して研究に取り組む日本ヘリコバクター学会の第21回学術集会が、6月26日から神戸市内で始まった。



参加者の関心を集めめたピロリ菌検査の受け付け風景

ピロリ菌とは

「ヘリコバクター・ピロリ」という胃の粘膜に感染する細菌のこと。約30年前に発見された。長さ4ミクロンのらせん状をした菌で、粘液の中に入り込み、胃の中でも繁殖する。日本では、60歳以上の年代で感染率が高いが、感染していても、ほとんどの人は自覚症状がない。